

出前交流塾

693-0051

島根県出雲市小山市361-2

エスポアル出雲クリニック

TEL (0853) 21-9779

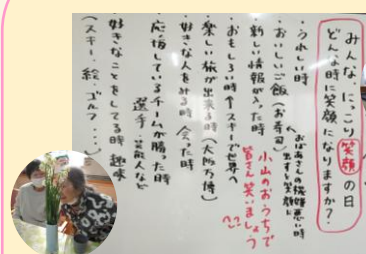
第244号

HPはこちら



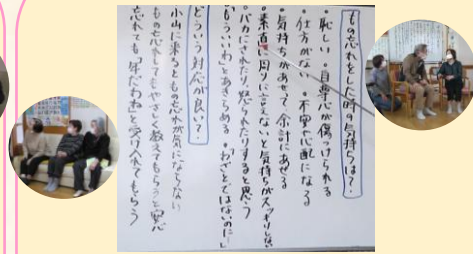
小山のおうちでは、日々のかかわりの中でメンバーの想いを皆で共有しています。

その1〜笑顔になる時は？



うれしい時、楽しい時は誰もが笑顔に!! 小山のおうちのメンバーも毎日の生活の中で、「嬉しかった」「楽しかった」「いまいちだった」など、誰にもある感情を、言葉として上手に伝える事ができにくくなっているだけで、むしろ、いろんな事を敏感に感じている。

その2〜もの忘れ談議



始めは「もの忘れはない」と話していたメンバーも、仲間のメンバーが上手に話を聞かれ、ぼろっと本音が出る場面も。普段は言にくいことも、安心して過ごせる場所では、素直な気持ちを表現でき、気持ちが穏やかになる。

メンバー一人ひとりの想いに寄り添い、その想いを皆で共有し、認め合うことで、穏やかに過ごせるようなかかわりを日々大切に過ごしている。



フロアより

感想

小山のおうちの方が言っている事は本当の気持ちを言われていて、本当に認知症なのかな?と思う会話をされている。自分も70才を超えて、夫婦2人で生活していて、「訳が分からなくなった施設に入れてね」と話しているのが現状。こういう施設があると知ることが出来、心強い。

感想

認知症の話はいろいろな形で聞いているが、実際に家族・身内が認知症になった時にどのように介護をしらた良いのか、認知症になってから慌てても遅いと思う。「難しいな」「ちょっと早いな」ではなく、元気なうちに正しく理解する事が大切。ぜひ、一般の方に、「認知症は怖い」「年齢をれば将来認知症に関わる」ということを知ってもらいたい。エスポアルの寸劇のYouTubeは分かりやすいので、家族と一緒に観て、若い人にも少しずつ広めていって、理解を広げてほしい。



高橋

認知症について、関係者や高齢者は興味・関心があるが、40〜60代の介護をする年代より下の世代は「まだ他人事」という認識が多く、「なってから」と考える人が多い。しかし、認知症はネガティブイメージが強く、「なんとか良くならないか?」「困ったものだ!」と来られる方が多い。20年余り交流塾を行っているが、なかなか広まっていない。小学校でも寸劇を交えて講演をしており、子どもは素直に受け止めて、素敵な感想が返ってくる。子どもたちの世代にもっと広がると良いと思っている。

感想

認知症になっても、いろいろな気持ちを持っている事は変わらないということを大切にしたい。

感想

知らないというのは怖い...と思った。

感想

私達は認知症予備軍で、こういう話は自分の子ども世代に聞いて欲しい。ぜひ、若い人を集めて、講習をしてほしいと思った。

感想

40代ぐらいから、人の名前が出てこない事が多く感じる。家族のかかわりが大事で、自分自身も大事にしてもらいたい。自分の家族に理解してほしいので、認知症の正しい知識を伝えていきたい。

感想

認知症のイメージが「私は違う」「私はなりたくない」とネガティブなものが多く、正しく知れば怖いもの、「知りたくない」とフタをしてしまうのかと思う。誰もが認知症になる時代で、本人も認めたくない、若い人もなりたくないからこそ、認知症になったらどうしたらいいかを知っておくことが大切だが、最近の流行りなのか、認知症の予防のテレビ番組も多い。小山のおうちのように、認知症は怖いと思え、認め合うことが広まれば、暮らしやすくなると思う。

認知症の人のこころとかかわり〜小山のおうちの実践から〜

小山のおうちは、出雲市小山市にある重度認知症患者デイケア。認知症による様々な悩みを抱えた本人や家族が当院受診後、通所開始となる。平成5年3月に開所し、32年を迎えた。小山のおうちでは利用者をメンバーと呼び、令和7年5月現在、登録者31名、一日に15名程度の方が通所し、平均年齢は84.9歳。多職種で、個性豊かなスタッフが揃い、毎日メンバーとのかかわりを大切にしたい支援を行っている。

小山のおうちが大切にしていること

もの忘れを認め合う

長生きすればもの忘れは当たり前。同じ辛さをもった仲間同士。「忘れた」「わからん」「私も一緒」と笑って堂々と話せる場所である。「今ここで」を大切に、一日の生活が展開される。

集団精神療法的関わり

一日を通して、一つの集団で、同じ話題やプログラムで過ごしている。スタッフはメンバー一人ひとりが「小山のおうち」を舞台として、一日を楽しみながら、持っている力が発揮出来るように、メンバーに寄り添ったかかわりを大切にしている。

主役体験

一日を通し、あらゆる場面で主役体験できるように関わりを大切にしている。小さな働き、つづやかれた一言、知識、経験談、寸劇など、どれも拍手で称える。

誰もが認知症になる現代…「認知症」について参加者の皆さんに聞きました

Q.「認知症」はどんなイメージですか?

直接的にケアとして関わった事もなく、祖父母も認知機能は落ちたが対応はしたことがなく、あまり実感が無い。仕事で認知症には関わっているが、認知症の人を尊重できることが大事だと思い、理解を深めていきたい。

昔のことは良く覚えていて、毎度同じことを繰り返す言い、さっき言ったことは分からなくなるというイメージ。

Q.あなたが「もの忘れ」をした時、どんな気持ちですか?

何で忘れたのかなあ、年取ってしまったな、失敗したなあ…。

気持ちは天性のものであり、あまり気にならないが、年を取ったと思う。

同級生が60歳の時、「もの忘れがひどくなった」と言って、しばらくしてどうとう分からなくなっていた。曾祖母も5分も経たないうちに同じことを聞いている様子を見て、自分もなったら怖いなと思い、「怖い」というイメージしかない。

参加者のみなさんの多くが「もの忘れはある」と挙手。